

東日本大震災復興応援企画

SAVE TAKATA! 米崎りんごプロジェクト 農業支援ボランティア活動を実施しました!



6月20日(土)岩手県陸前高田市内のりんご農園にて行われた
「SAVE TAKATA! 米崎りんごプロジェクト」に
当社グループの有志 計40名が参加しました!



当日は、米崎地区のりんご農家・吉田様宅に伺い、りんごの実の剪定「摘果」をしました。
また、陸前高田に向かうまでに、気仙沼の沿岸部や奇跡の一本松のモニュメントなどを見学し、
東北の現状や復興の様子を体感してきました!



りんご農園では4人1組となって
研修生の方にご指導いただきながら
「摘果」の作業に取り組みました!



道中は、気仙沼や陸前高田の復興の様子を車窓見学したり、奇跡の一本松を見学したりしました。



SAVE TAKATA スタッフの管原さんのガイドでりんご農園を目指します



気仙沼市内

かさ上げ工事の現場にはかさ上げ幅を示す「TP+Om」という表示がたくさんありました。津波で流された瓦礫や車が集まった港では、重油タンク発火による火災で鹿折地区の街が焼き尽くされました。

気仙中学校・道の駅「タピック45」

陸前高田市内には、犠牲者0だったことから震災遺構として残されることになった建物が4つあります。震災当時から変わらない建物は、津波の威力を体感できる数少ない貴重な場所となっています。



陸前高田のベルトコンベアー「希望のかけ橋」

住宅地かさ上げのための建設作業が急ピッチで進められています。屋になると近隣の山肌が発破され、全長3キロにも及ぶベルトコンベアー、砂利や土などを運んでいます。

奇跡の一本松

高田松原には350年にわたって松の木約7万本が植林されてきましたが、大津波の直撃を受けてほぼ全てがなぎ倒されました。

松原の西端近くの松1本のみが残りましたが、根が腐って枯死と判断され、後に防腐処理等の保存作業を経て、復興を象徴するモニュメントとしてこの地に立ち続けることになりました。



岩手県陸前高田市の米崎地域は、全国的にも珍しい、海の傍にあるりんご産地です。「米崎りんご」の栽培の歴史は約120年と古く、明治時代に梨の栽培技術が伝わったのち、次第に手間の掛からないりんご栽培が普及していったと言われています。

「米崎りんご」は生産量が少なく、大変貴重なりんごです。海を臨む高台の傾斜地で、年間日照時間1702時間という太陽の恵みをたっぷりと浴び、ミネラルを含んだ海風に吹かれて育ちます。霜が降りる時期が遅く、樹上で完熟するのを待ってから収穫するため、甘みが強く蜜がたくさん入った味の濃いジューシーなりんごになるのです。米崎の農家ではたくさんの愛情と手間をかけて、この「米崎りんご」を育てていました。



2011年3月11日。東日本大震災で発生した津波は、米崎地域のりんご園にも押し寄せました。街の復興にあたり、高齢化や過疎化で運営が困難になったりんご園をやむなく宅地化する動きもあります。一方で、瓦礫でりんごの樹が折れて伐採を余儀なくされても、また新しい樹を植え、地域ブランドの再生にチャレンジし続ける農家も多く存在します。甚大な被害を受けても、甘くておいしい自慢のりんごを届けるために、日々、力を注いでいるのです。

一般社団法人SAVE TAKATAは、陸前高田を“日本の未来をつくる地域”にしようと、「高齢化」「若者流出」「一次産業衰退」等の地域課題を解決する事業に取り組んでいる団体です。陸前高田市には約80軒のりんご農家があり、年間1,500トンの生産がありますが、高齢化問題の深刻化によるりんご農家の減少が地域の課題となっています。

そこで、りんごの「生産～加工～販売」による地域再生・発展と、大学生や若年無業者などの若者への雇用創出による「担い手づくり」の取り組みが進められています。これは、新しい社会事業モデルとしても注目されている取り組みです。

現在の取組状況としては、地元事業者や福祉施設と連携しながら、地域ブランド「米崎りんご」のジュースとジャムを開発・販売し、農家の収入向上や地域経済の活性化に繋げています。



東日本大震災から4年余りが経過した今、私たちにできることは何か…

当社は、東北の農業支援や地域振興を進めるこのプロジェクトへの参画を通じて少しでも東北の皆さまのお役に立つことができると考えています。

「SAVE TAKATA 米崎りんごプロジェクト」 受入れ先：一般社団法人 **SAVE TAKATA**

※詳細は HP <http://savetakata.org/> をご覧下さい。